

首都圏地震観測網 (3.1 参照)

2008年度設置観測点例

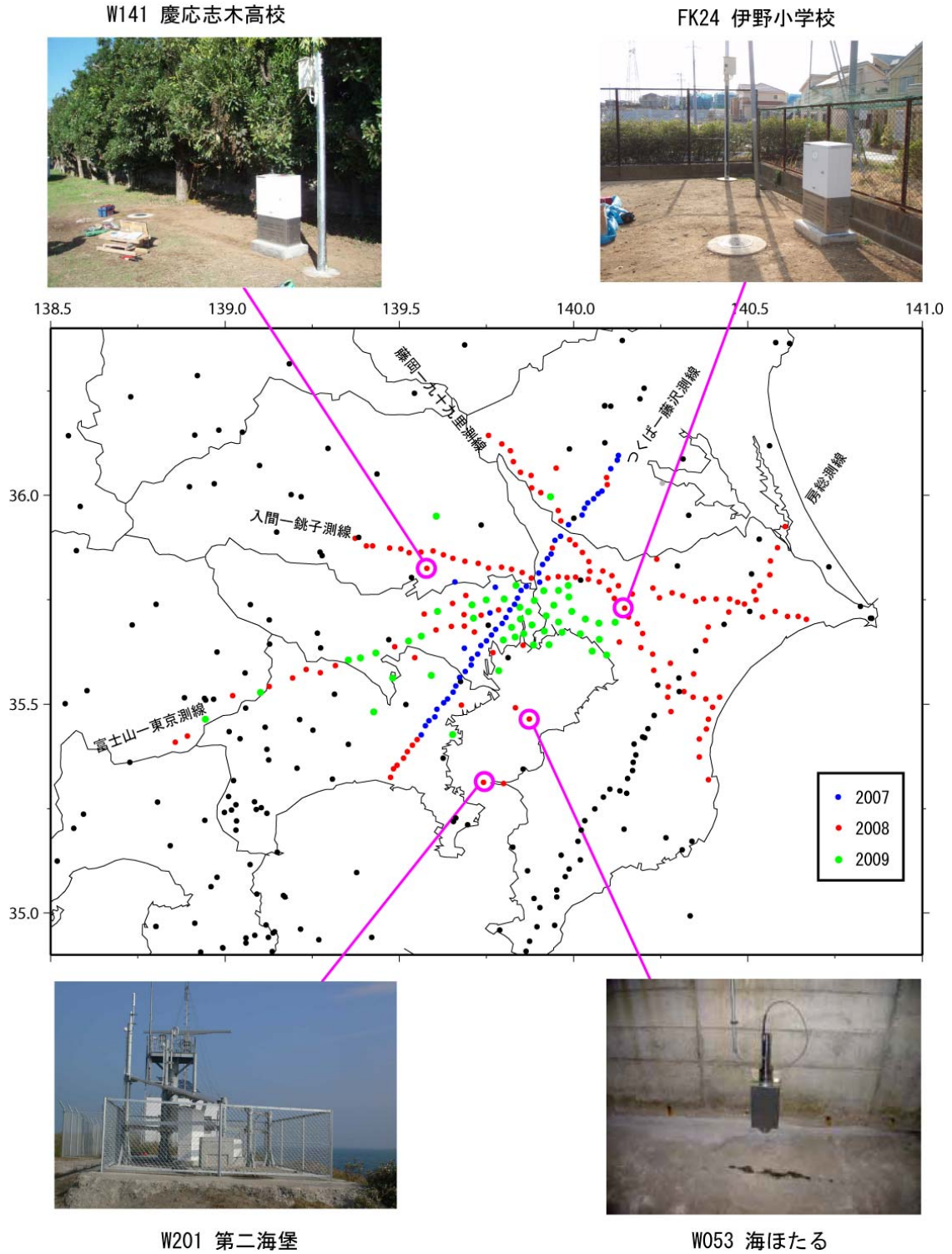
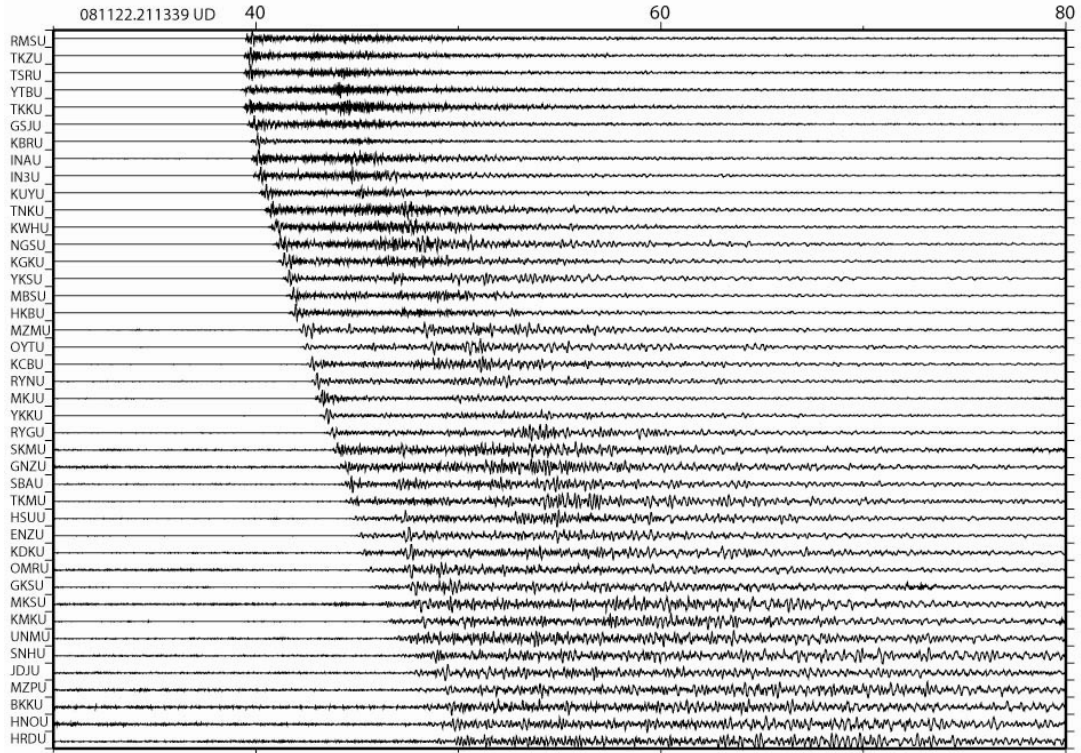


図1 2008年度設置観測点例

(a) 2008年11月22日 茨城県南部 深さ41km M4.4 LPF:1 s



(b) 2008年11月24日 オホーツク海 深さ492km M7.3 LPF:5 s

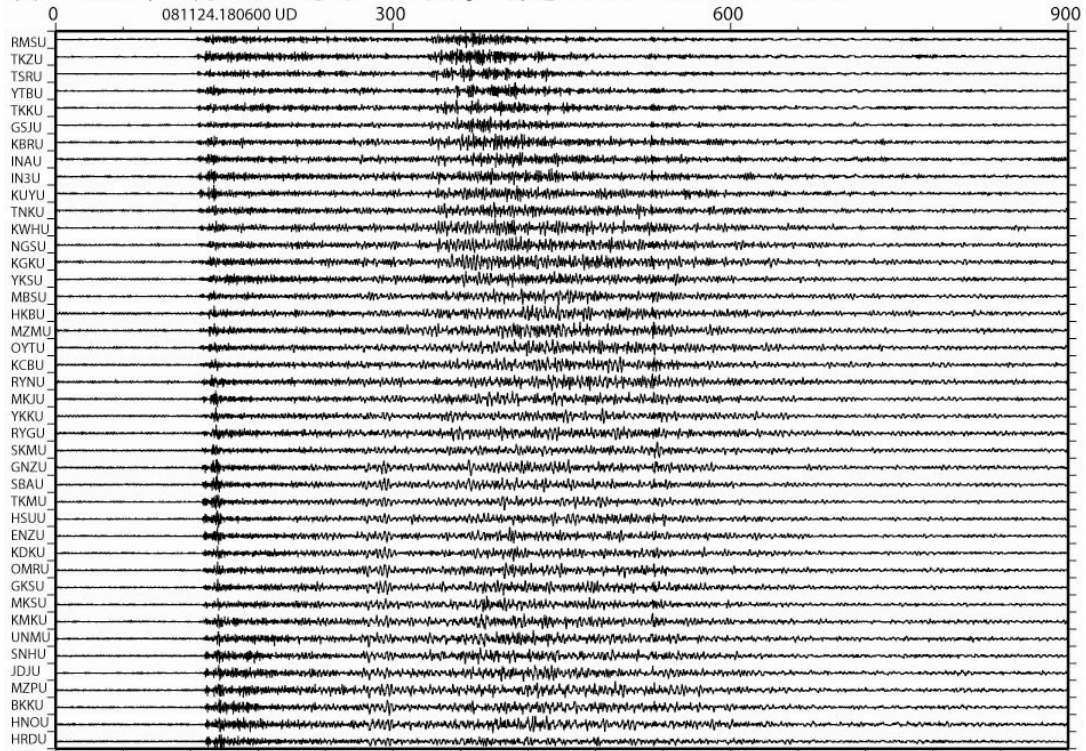
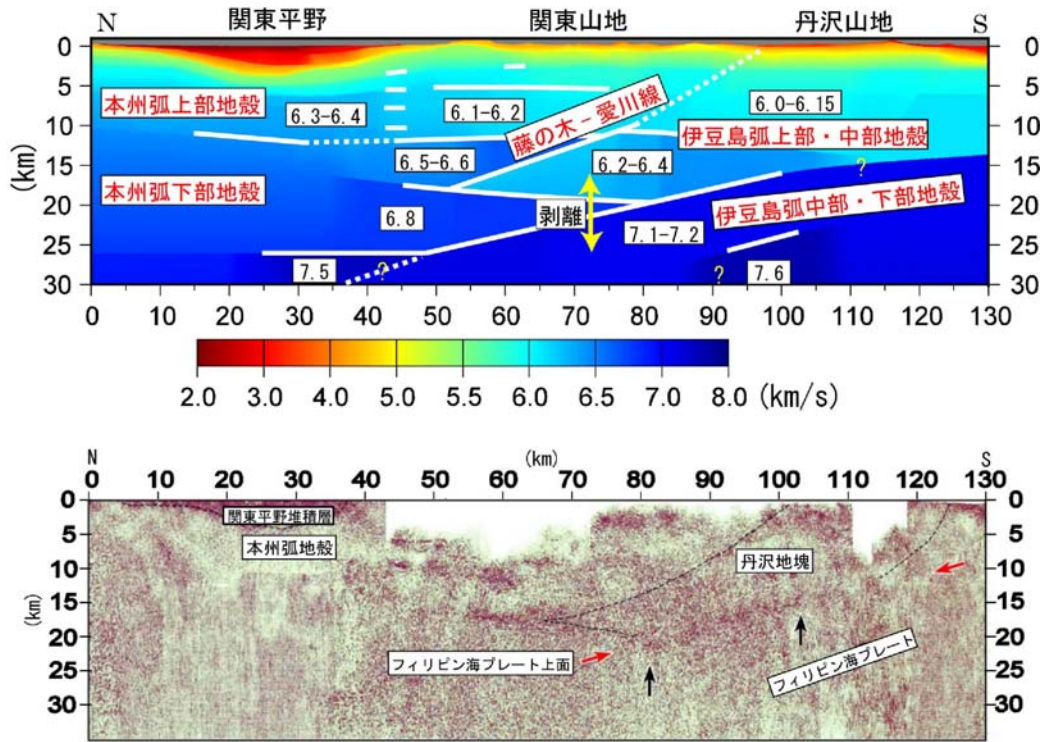
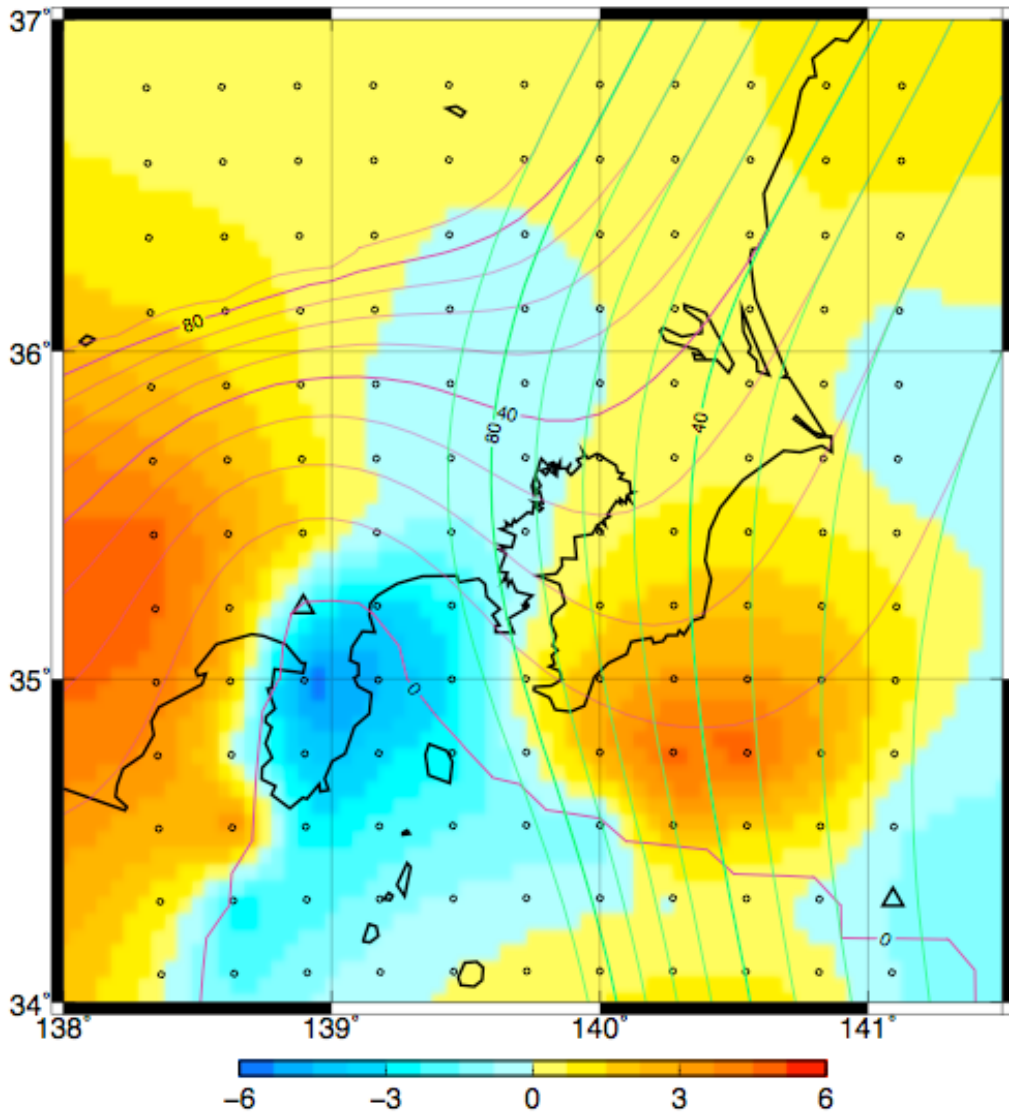


図2 観測された地震波形の例。つくば一藤沢測線の観測点を北から順に並べた。

制御震源を用いた地殻構造探査 (3.2 参照)

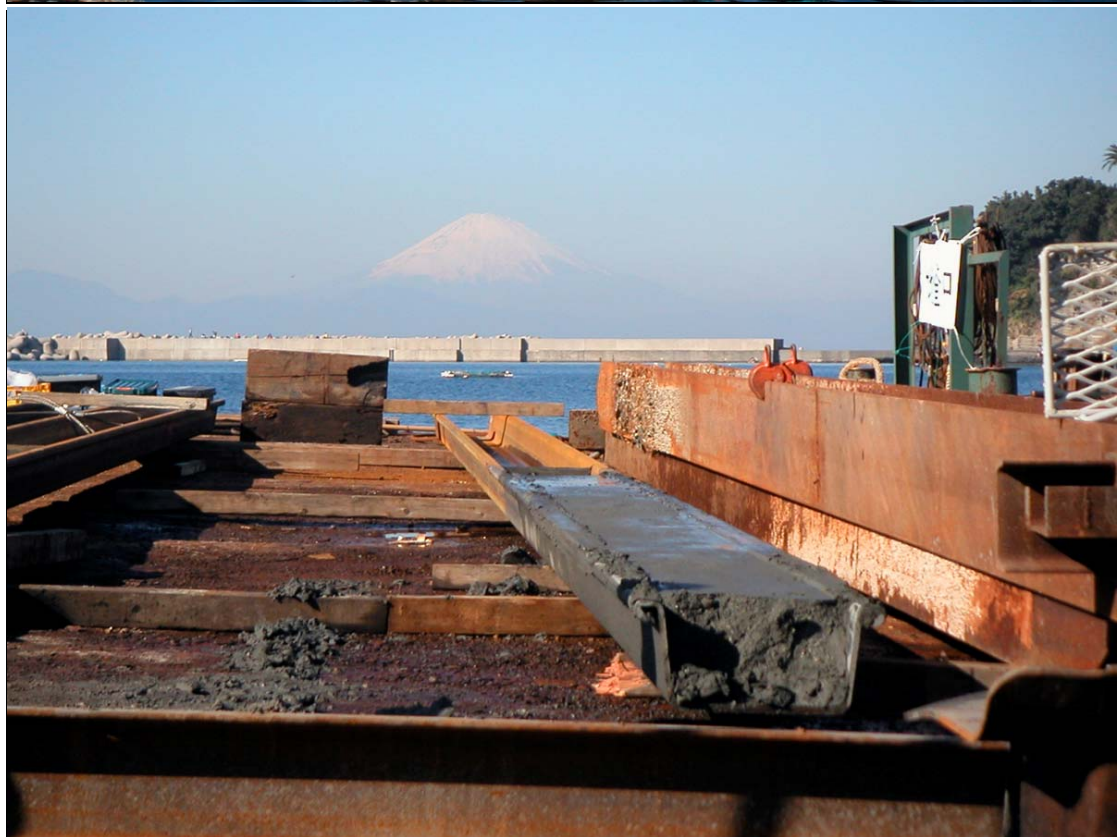


2003 年関東山地東縁測線の屈折法フォワードモデリングによる速度構造モデル (上) と反射法地震探査断面 (下; Sato et al. (2005)による)。



フィリピン海プレート、太平洋プレートの定常的な沈み込み運動による関東地方の長期的上下変動 (mm/yr)。○点は安定解、△点は不安定解。赤線はフィリピン海-北アメリカプレート境界面、緑線は太平洋-北アメリカ・フィリピン海プレート境界面を表す。プレート境界にごく近い計算点においても安定解が得られている。

過去地震の類型化と長期評価の高度化に関する調査研究
(3.3.4 参照)



神奈川県三浦半島小網代湾におけるロングジオスライサー調査

強震動予測手法と地下構造モデルに関する調査研究（3.4.1 参照）

首都圏を含む広域の長周期地震動予測地図を試作するため、まず従来の地下構造モデルの検証および改良を実施して、地下構造の1次モデルを構築した。次に、この1次モデルを用いて、想定東海地震（上図）と東南海地震（下図）による長周期地震動予測地図を試作した。

